

専用取扱説明書

品番 **BSR-77**



《必ずお読みください!》

重 要

本製品は100%完成車ではございませんのでお客様に調整等をお願いすることがございます。

お手数をおかけすることがございますがあらかじめご容赦くださいませ。
。（組み立て、ギア・ブレーキの調整等、その他）

また初めてのご乗車の前や日々のご乗車の前には、日常のお手入れ欄に記載されている点検項目を、必ずチェックしていただきますようお願いいたします。

製品の改良のために仕様の一部を予告なく変更する場合がございます。あらかじめご了承くださいませ。
また、お買い上げの車種によりましては、説明書と実物の部品の仕様、形状等が異なる場合がございます。

アフターサービス

●保証書

必ず販売店及びお買い上げ日をご確認いただき、お買い上げの販売店から受け取り、内容をよくお読みのうえ、大切に保管してください。

また、お客様にて改造または修理をされた商品に関してましては保証対象外となります。何卒ご了承ください。お客様にて修理された際の費用のご請求は一切お受けできません。

※通信販売等でお買い上げの場合は、販売店の購入明細、日付の入った代引きの領収書等が販売店印の代わりとなりますので、大切に保管してください。

●修理をお申しつけされるとき

[保証期間中]

商品と保証書をお買い上げ店にご持参、ご提示のうえ、ご相談ください。

保証書に記載されている保障修理規定に基づき、修理致します。

[保証期間を経過しているとき]

お客様のご要望により有料で修理いたします。

※往復送料はお客様負担となります。

●アフターサービスについてご不明な場合

アフターサービスについてご不明の場合には、お買い上げの販売店又は、弊社カスタマーサポートセンターにご相談ください。

カスタマーサポートセンター

WEB

弊社ウェブサイトにて製品情報及び製品サポート情報をご確認いただけます。

▶ <http://www.b-grow.com/support/>

▶ 阪和 カスタマーサポート

MAIL

受付時間外のお問い合わせはメールにて受け付けております。

▶ **ss@b-grow.com**

※ご返信は受付時間内での対応となります。予めご了承ください。

消耗品・部品のご注文

下記ウェブサイトにて消耗品及び部品のご注文を承っております。

▶ <http://www.b-grow.com/support/>

ご購入後のお問い合わせにつきましては、以下の項目をご確認のうえお問い合わせください。

■品番 ■品名 ■お買い上げ日

■お買い上げ店名

■お問い合わせ内容

TEL

お電話でのお問い合わせはこちら

▶ **050-3505-7050**

受付時間 10:00~17:00
(土日祝、弊社休業日を除く)

※時間帯により、電話が集中し、つながりにくい場合がございます。予めご了承ください。
※お電話番号をお確かめのうえ、おかけ間違いのないようにおかけください。
※電話番号・受付時間などについては、変更になる場合がございます。

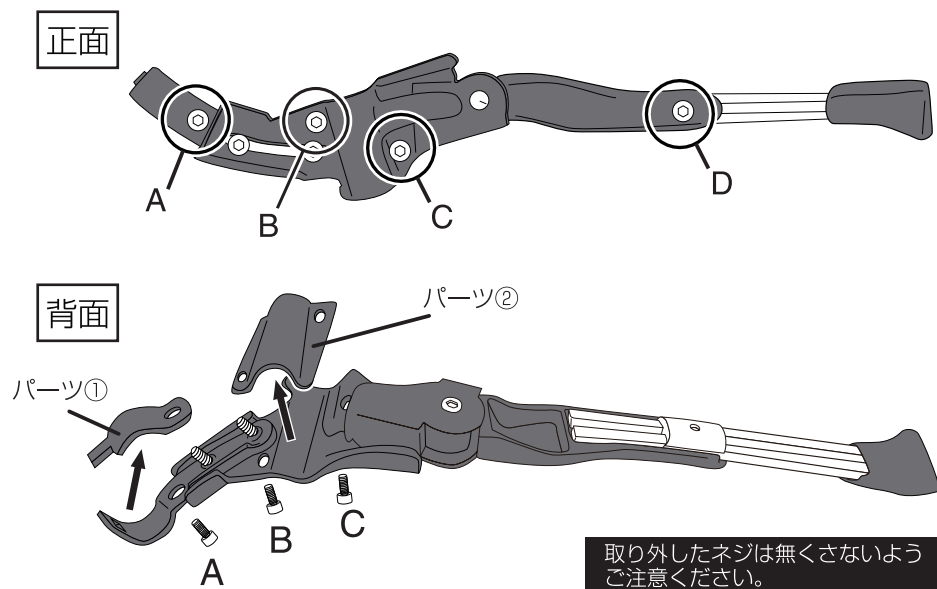
発売元

株式会社 阪和

〒556-0016 大阪市浪速区元町3-11-16

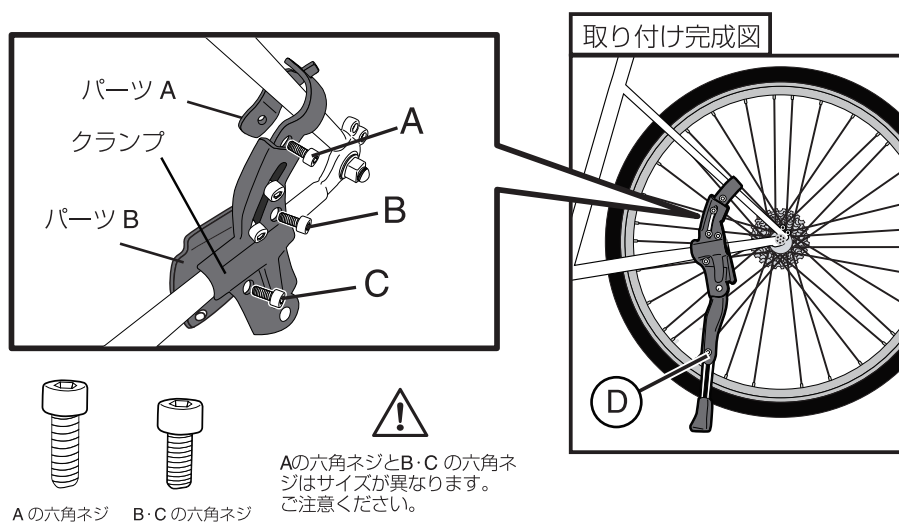
スタンドの取り付け方

1. 付属の六角レンチを使い、パーツ①とパーツ②を取り外してください。



2. クランプをフレームに合わせます。ABCのネジを仮止めした後、各ネジを均等にしめます。駐輪時の角度はDのネジで調整できます。

車体の右側面にはディレーラー（変速機）がありますので必ず左側面にお取付ください。



もくじ

注意、日常のお手入れ、警告	1ページ
各部名称	2ページ
車輪の取り付け方と外し方	3～4ページ
ハンドルの取り付け方	5ページ
ブルホーンハンドル、ドロップハンドルを 装着している車種について	6ページ
サドルの差し込み、固定	6ページ
ペダルの取り付け方	7ページ
変速機の調整(リアディレーラー)	8～9ページ
変速機の調整(フロントディレーラー)	10ページ
ブレーキの調整(キャリパーブレーキ)	10ページ
スタンドの取り付け方	11ページ
アフターサービス	12ページ
カスタマーサポートセンター	12ページ

《必ずお読みください!》

この説明書の項目を十分にご確認ください。
別紙取扱説明書には自転車点検リストが付いていますので
日頃の点検、整備を行ない、安全走行をお願いいたします。

- 変速機、ブレーキ等に関しましては、工場出荷時点で調整を行なっておりますが、輸送中の振動等により、お客様ご自身での調整が必要になる場合がございます。あらかじめご了承ください。
- ハンドル、ペダル等は必ずご乗車の前にしっかりと固定されているか確認してください。
- ブレーキの点検はご乗車前に必ず行なってください。

その他の事項につきましても必ず説明書をよくお読みください。

日常のお手入れ

自転車のご使用に際しては、日常のお手入れ調整が必要になります。
ご乗車前には下記注意事項を参考に、各部の点検を行なってください。

●各部の点検

- ・ハンドルの固定
- ・ペダルの固定
- ・サドルの固定
- ・変速機の調整
- ・タイヤの空気
- ・ブレーキの効き具合

●保管方法とお手入れ

- ・保管は水、雨のかからない場所で行なってください。
- ・場所の確保が困難な場合は、カバーを使用するなどしてなるべく水分を避けてください。
- ・自転車を濡れたまま放置いたしますと、サビ、劣化の原因となります。水分を拭き取るなどして保管してください。
- ・チェーンには定期的に注油を行なってください。
- ・なお、リムやペダルの固定部分等には潤滑油の類は注油しないでください。部品の脱落、事故の原因となります。



警告

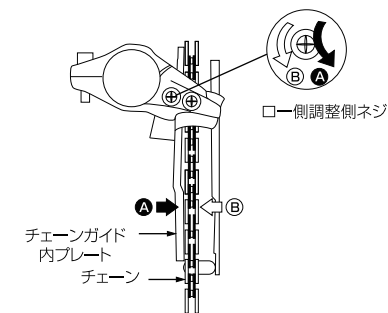
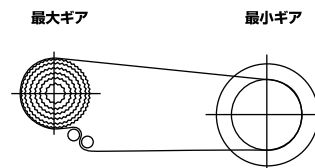
日常の点検を怠りますと、思わぬ事故につながる可能性があります。
乗車前点検や日々のメンテナンスは必ず十分に行なってください。

製品の改良のために仕様の一部を予告なく変更する場合がございます。あらかじめご了承くださいませ。
また、お買い上げの車種によりましては、説明書と実物の部品の仕様、形状等が異なる場合がございます。

変速機の調整(フロントディレラー)

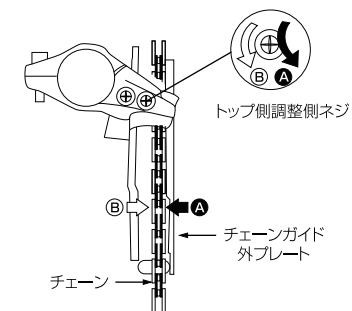
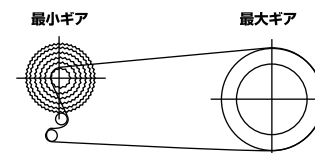
1.ロー側の調整

フロントディレラーを最小ギアに、リアディレラーを最大ギアにしてからロー側調整ネジを回し、チェーンガイド内プレートとチェーンの隙間を0~0.5mmにセットしてください。



2.トップ側の調整

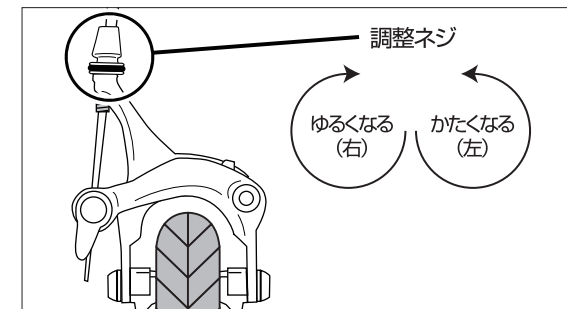
フロントディレラーを最大ギアに、リアディレラーを最小ギアにしてからトップ側調整ネジを回し、チェーンガイド外プレートとチェーンの隙間を0~0.5mmにセットしてください。



ブレーキの調整(キャリパーブレーキ)

調整ネジで調整します。

調整ネジは「ブレーキ本体付近」に付いています。
ブレーキを握り込んでもブレーキが効きにくい場合や、ブレーキが固い場合などに調整してください。



ブレーキを握り込んでもブレーキが効きにくい場合

調整ネジ左に回し、ブレーキを固くしてください。
ブレーキレバーを握りながら固さを調整してください。

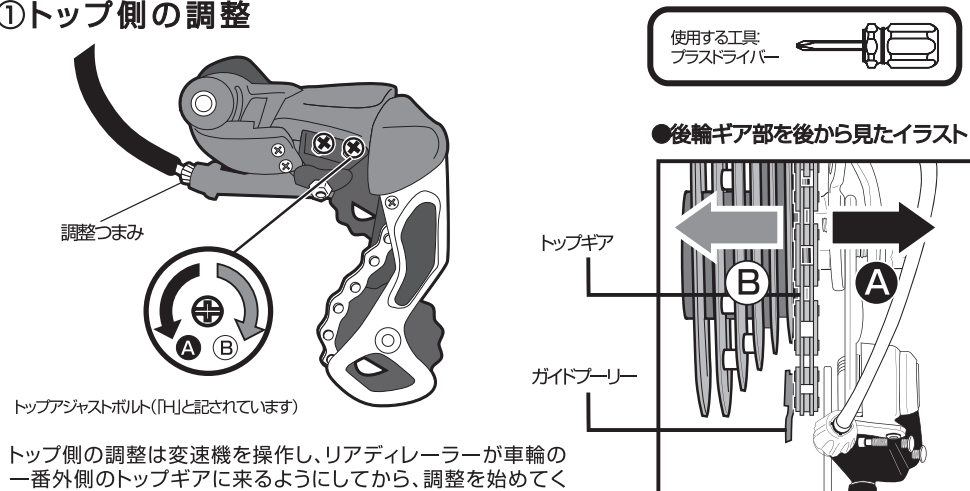
ブレーキが固い場合

調整ネジ右に回し、ブレーキをゆるめてください。
ブレーキレバーを握りながら固さを調整してください。

※調整ネジのしめすぎは
ブレーキワイヤーの破損の
原因となりますので注意し
てください。

変速機の調整(リアディレーラー)

① トップ側の調整

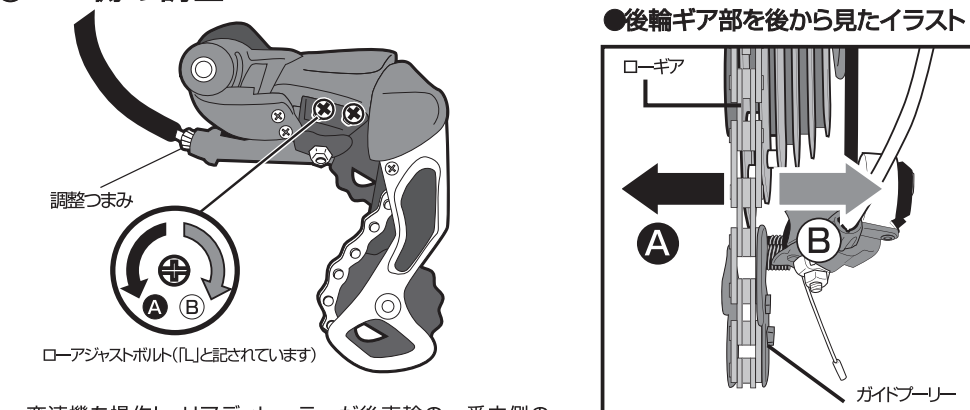


トップ側の調整は変速機を操作し、リアディレーラーが車輪の一番外側のトップギアに来るようにしてから、調整を始めてください。

Hのネジをプラスドライバーで回し、ガイドプーリーの中心とトップギアの外側が一直線上に並ぶように調整してください。

※トップ側へチェーンがはずれるときは、トップ調整ボルトをしめてください。

② ロー側の調整

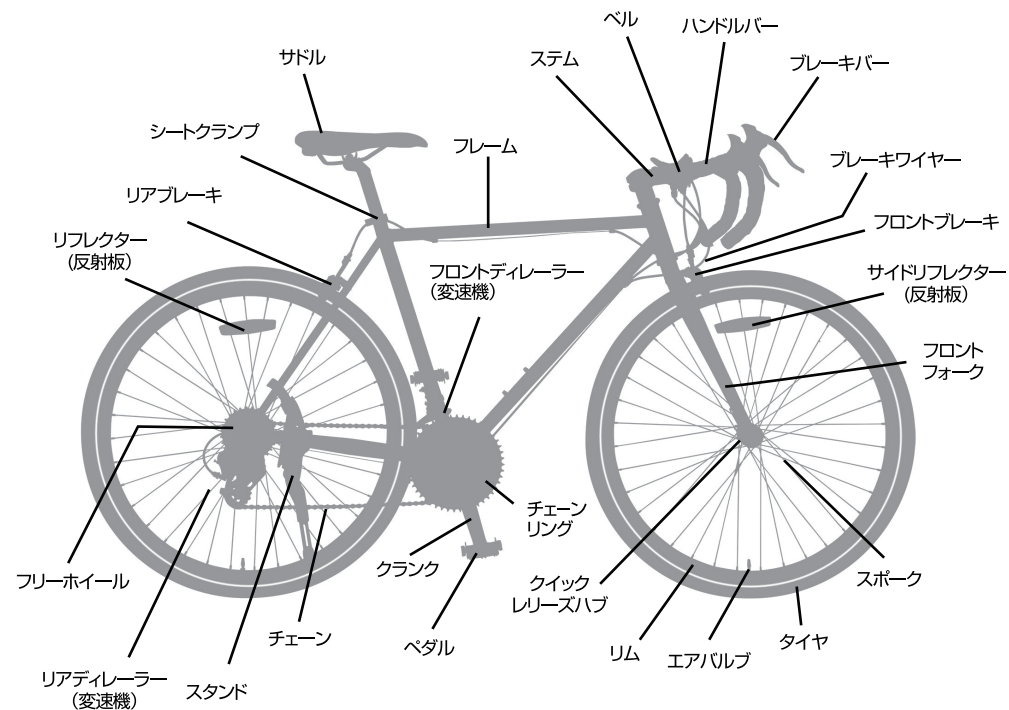


変速機を操作し、リアディレーラーが後車輪の一番内側のローギア(軽いギア)にくるようにしてから調整を始めてください。

Lのネジをプラスドライバーで回し、ガイドプーリーの中心とローギアの中心が一直線上に並ぶように調整してください。

※ロー側へチェーンがはずれるときはロー調整ボルトをしめてください。

各部名称



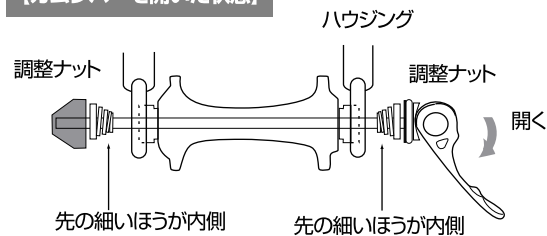
クイックリリースハブ装着車の車輪の取り付け方と外し方

前輪を外した状態で梱包されています。下記の手順に従って組み立てを行なってください。

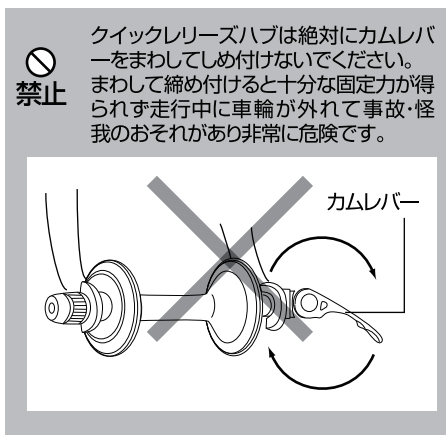
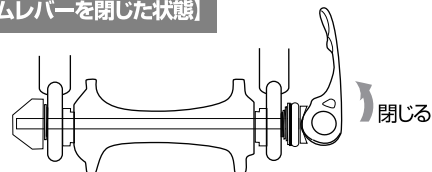
クイックリリースハブの仕組み

クイックリリースハブはカムレバーを開閉して「しめ」「ゆるめ」を行なう構造になっています。カムレバーを閉じるとハウジングが内側に動き、この力でフレームに車輪を固定します。

【カムレバーを開いた状態】

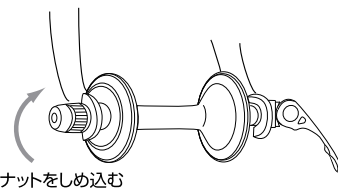
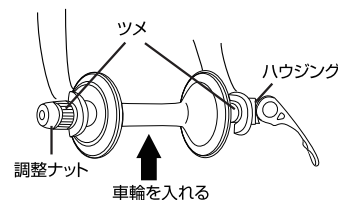


【カムレバーを閉じた状態】

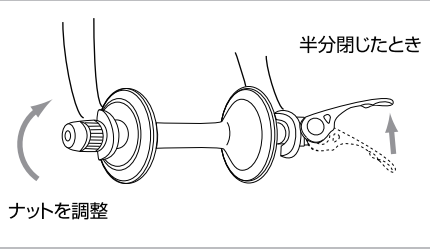


車輪の取り付け方

- ①ロックナットとハウジングの間にツメが簡単に入るまで調整ナットをゆるめます。
- ②車輪にツメを入れます。
- ③レバーを開いたままにして、調整ナットおよびハウジングが、共にすきまがなくなるまで調整ナットをしめ込みます。
- ④レバーを半分閉じたときレバー操作が固くなり始めるように調整ナットを調整します。
- ⑤レバーを最後まで閉じ込んで固定します。レバーを閉じ込んだときに手のひらが多少痛くなる程度で押し付ける力は160～200N (16～20kgf) に調整ナットを調整してください。

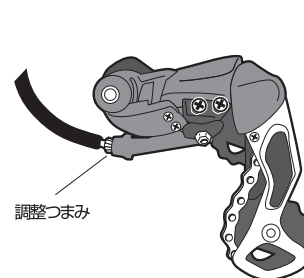


- 注意** レバーをAの位置まで操作したときに十分固定できることが重要です。もし、レバーが固すぎたり、ゆるすぎて固定が十分でない場合は危険ですから再調整してください。
- 注意** レバーは必ず前後輪とも乗車して左側になるようにしてください。
- 注意** レバーは閉じこんだとき前ホークおよびバックホークに横から見てほぼ平行にそわせてください。

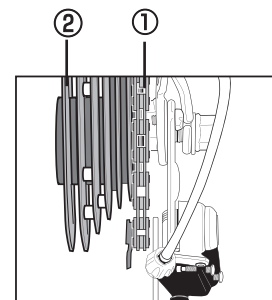


変速機の調整(リアディレーラー)

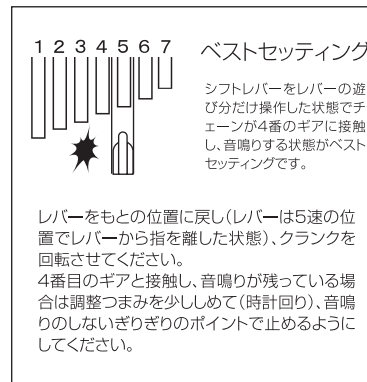
変速機の調整は工場出荷時に行なわれておりますが、お客様自身による調整が必要になる場合がございます。なお、変速機の調整は保証・サポートの対象外となります。あらかじめご了承ください。



※車種により変速機の形状が異なります。こちらは一例です。

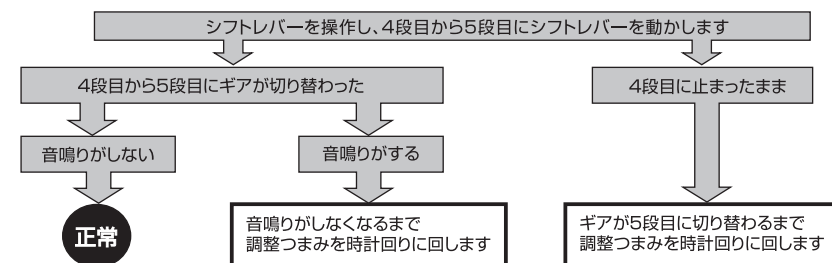


① 一番外側の小さいギアを7段目
② 一番内側の大きいギアを1段目とします。※7段変速の場合

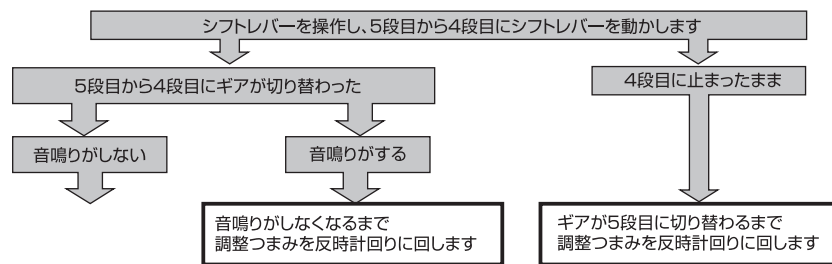


強制 ディレーラーの調整は必ずクランクを回しながら行なってください。クランクを回さない状態では絶対に調整しないでください。

【4段目から5段目にシフトアップする場合】



【5段目から4段目にシフトダウンする場合】



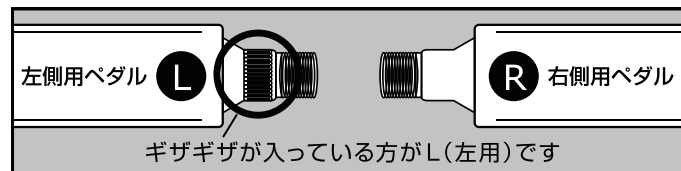
※この調整は各ギアごとに行なってください。また、調整つまみで調整しきれない場合はディレーラーをトップギア側(外側)にし、調整つまみを締め込み再度変速ワイヤーを張りなおしてください。外装変速機の調整は経験に左右されることが多いですから、何度か試してみるのが良いでしょう。

ペダルの取り付け方

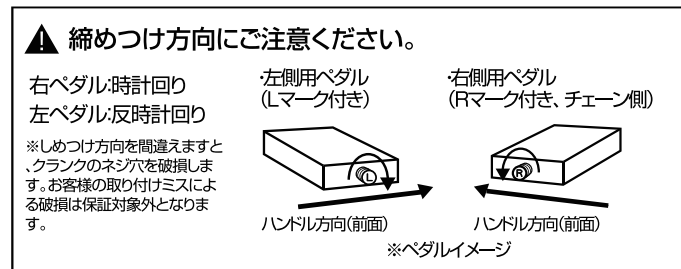
下記の注意点をお読みのうえ、取り付け作業を行なってください。

重要～取り付け時の注意点～

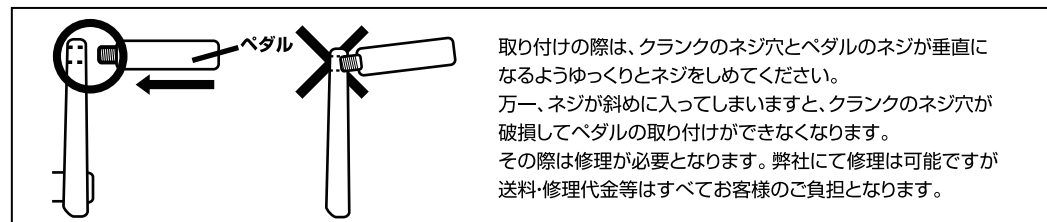
●ペダルには右用、左用があります。左右を間違えると取り付けできません。



●ペダルは左右で締めつけ方向(ネジの向き)が異なります。



●取り付けはクランクに対して垂直に行なってください。



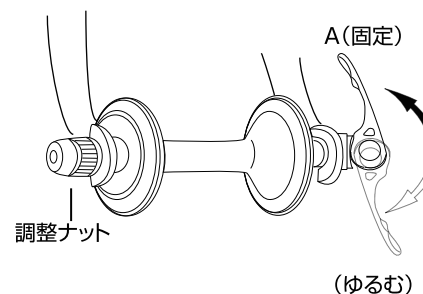
ペダルの取り付け方

①最初に手でペダルのネジをクランク(ペダルを取り付ける部分)のネジ穴に2～3回転程度ねじ込みます。

②まっすぐねじ込まれているのを確認してから、必ず工具を使用してしっかりと固定してください。固定が弱いと、破損、事故の原因となります。

⑥車輪が確実に固定されているか確認してください。

⑦ブレーキワイヤまたはブレーキのクイックリリースレバーを元へ戻し、ブレーキレバーを引いたときに正常に作動するか確認してください。

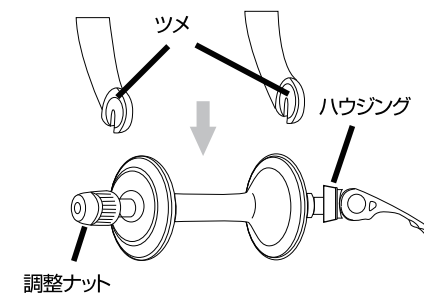
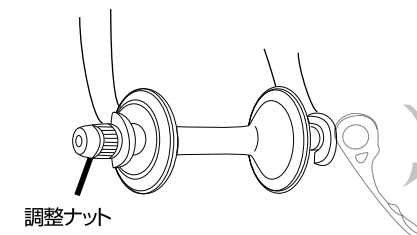
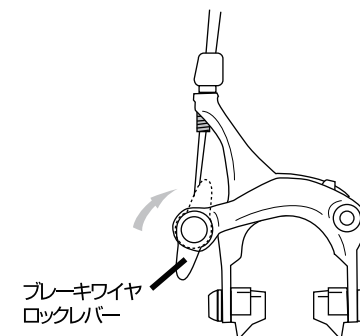
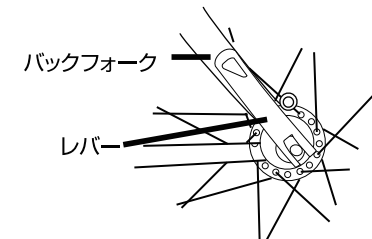
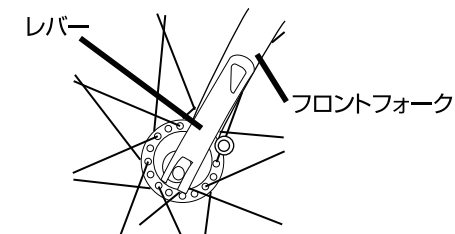


車輪の取り外し方

①ブレーキワイヤロックレバーを解除してブレーキアームを開きます。

②レバーを開いて車輪の固定をゆるめます。

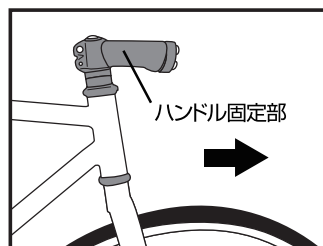
③車輪をフレーム・フロントフォークから取り外します。
前輪は調整ナットを2～3回ゆるめると外せます。



ハンドル取り付け方

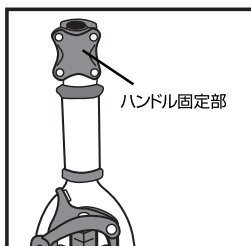
①

ハンドルの固定部を図のように正面へ向けてください。



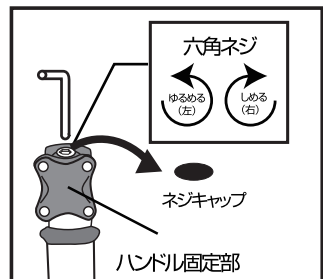
②

正面から見て、図のように前輪タイヤのブレーキが前にくるようにしてください。



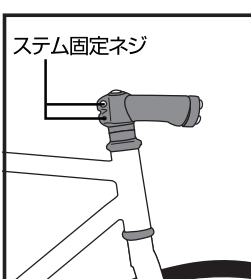
③

ハンドル固定部、上部分の六角ネジのキャップを取り、付属の六角レンチで固定してください。

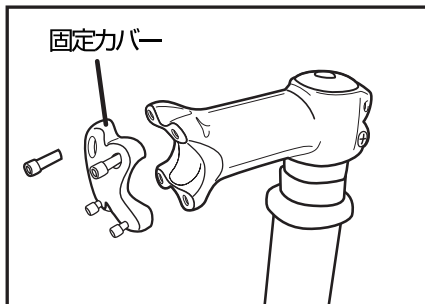


④

ステム固定ネジ(2カ所)をしっかりと締めてください。

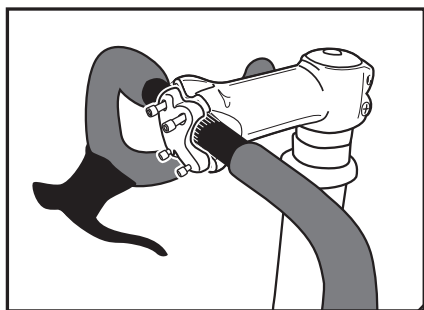


⑤



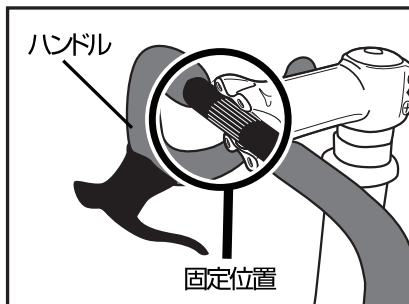
付属の六角レンチでハンドル固定部を図のように外してください。

⑦

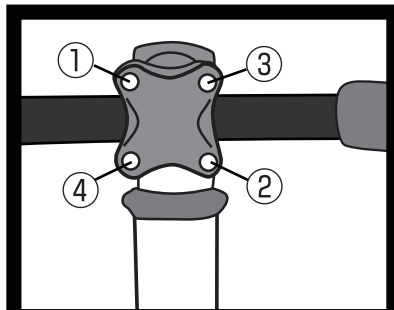


ハンドルの位置、角度を調整しハンドル固定カバーをはめ、しっかりと六角レンチで回して固定してください。

⑥



ハンドル固定部にハンドルを取り付けます。ハンドルについている滑り止めの位置でハンドルを固定してください。



固定カバーをしめる際、図の順番に仮止めしていき、最後にすべてのネジをしっかりと締めてください。

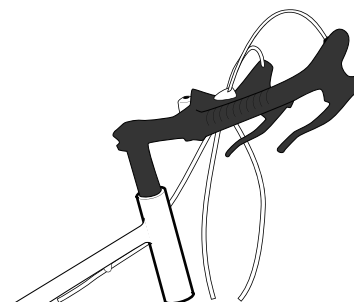
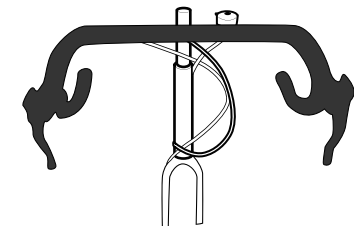
ブルホーンハンドル・ドロップハンドルを装着している車種について

警告

必ずお読みください

ブルホーンハンドルやドロップハンドルの装着車種においてはハンドルと操縦管の取り付け部に大きな負荷がかかります。

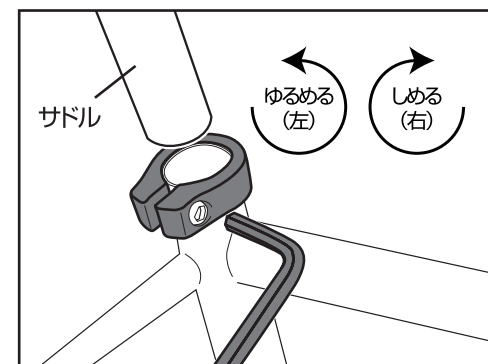
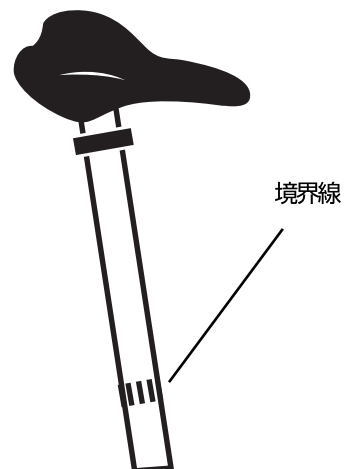
また比較的前傾姿勢のポジションとなり操縦管とハンドルの固定部に負荷がかかります。操縦管とハンドルの固定がゆるい場合にはハンドルが下方向(地面側)に回転し思わぬ事故につながるおそれがあります。乗車前には必ずハンドルと操縦管が確実に固定されハンドルが上下に動かないことをご確認ください。うえ、ご使用ください。



サドルの差し込み、固定

ご注意

サドル、ハンドルはしっかりと固定してください。固定されないまま乗車されますと、事故の原因となります。乗車前には必ずゆるみがないかどうか点検を行なってください。



境界線が見えないところまで差し込み、六角レンチでしめて固定します。固定する際はしっかりとレバーをきつく締めてください。サドルを抜く場合は左に回してネジをゆるめてください。